

【活用方法 1】：

「現在、行っている授業の工夫点が、どのようなつまずきの背景がある子どもに有効であるかどうか確認したい」の場合

活用に当たっては、「授業の工夫点チェックリスト 1」(p. 3～9) を使用します。

授業の工夫点チェックリスト 1 ((1)～(10)は授業場面)

| 設問番号 | 授業場面における工夫点 | チェック | 工夫点が有効であると考えられる | 工夫点の詳細 |
|--------------------|------------------------|-------------------------------------|--|--------|
| | | <input checked="" type="checkbox"/> | 児童生徒のつまずきの背景 | 掲載ページ |
| (4)－① 授業の導入 | | | | |
| ①－1 | 前時の復習をしている | <input checked="" type="checkbox"/> | C 記憶力の弱さ N 注意の持続の困難さ | p. 46 |
| ①－2 | 小テスト等を活用している | <input type="checkbox"/> | C 記憶力の弱さ M 自己コントロールの困難さ N 注意の持続の困難さ | p. 47 |
| ①－3 | 授業に意欲を持たせるような教材等を使っている | <input type="checkbox"/> | A 刺激の影響の受けやすさ B 言語理解の困難さ K イメージすることの困難さ M 自己コントロールの困難さ N 注意の持続の困難さ | p. 48 |

図 1 「授業の工夫点チェックリスト 1」の例

以下に活用手順を示します (図 1 参照)。

- ア チェックリストの中から、授業で自分が行っている工夫点を探し、を付ける。
 ※例では、授業の展開における工夫点である「(4)－①－1『前時の復習をしている』」のところにチェックが入っています。
- イ の付いた工夫点が、どのようなつまずきの背景がある子どもに有効かについて確認する。
 ※図 1 の例では、「前時の復習をしている」という工夫が、「C 記憶力の弱さ」「N 注意の持続の困難さ」という二つのつまずきの背景がある子どもに有効であることが分かります。
- ウ 「工夫点の詳細掲載ページ」のページ数を確認した後に該当のページを開き、書かれている詳しい解説や具体的な工夫例等を読む。
- エ 解説や工夫例を参考として、今後の授業の組立てを考え授業の中で活用する。